

看護研究 I (量的研究)

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
前期	2	必修	22.5

担当教員

野口 眞弓、森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護研究の重要性とその意義、研究倫理、研究課題の明確化、文献検討、研究計画書の作成など看護実践や教育の場で共通して活用できる看護研究の基礎的知識を深める。

【到達目標】

データ収集方法、臨床現場でどのようにエビデンスを使い(研究結果の応用)、エビデンスを作って(看護実践への有用性や適応の開発)いくのかに焦点をあて、質的研究・量的研究に必要な技術・知識の基礎を習得する。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的授業※
1	看護研究とは何か、看護研究の重要性とその意義 看護研究の倫理と研究結果の応用	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
2	研究課題の明確化と絞り込み作業 研究の仮説と前提、研究計画書	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
3	文献検討の意義とその方法(医学文献データベースの利用法)	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
4	EBM と EBN、エビデンスを使う、エビデンスを作る	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
5	概念枠組みと理論の役割	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
6	研究デザイン I : 実験研究、質的研究	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
7	質的研究と量的研究の相違とそれぞれの強み、 Mixed Method について	講義 グループディスカッション	野口 眞弓	②③
8	研究デザイン II : 量的研究 母集団と標本	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
9	標本抽出(無作為抽出、有意抽出)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
10	調査方法 I (訪問面接法、集団記法、配布回収法、その他)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
11	調査方法 II (郵送法、電話法、インターネット、その他)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
12	質問紙の作成(ワーディング)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
13	尺度開発 I (信頼性)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
14	尺度開発 II (妥当性)	講義 グループディスカッション	森田 一三	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	野口・森田	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。

IV 教科書

『看護研究原理と方法 第2版』 D.F. ポーリット／C.T. ベック著 近藤潤子監訳 2010
[N07/P76/2nd]

V 参考図書

『エビデンスのための看護研究の読み方・進め方』 高木廣文他著 中山書店 2006 [N07/Ta29]
その他、適宜紹介する。

VI 評価方法

参加の状況（20％）レポート（80％）により総合評価する。

VII 受講要件

特になし

VIII その他

特になし

看護研究Ⅱ（質的研究）

（履修証明プログラム）

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

質的研究の意義を理解し、看護の実践や教育の場で共通して活用できる質的な看護研究の基礎的知識を深める。さらに質的研究を用いた論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方を判断する能力を高める。

【到達目標】

1. 基本的な方法論を中心に、理論的基盤・哲学的背景・データ収集、分析方法等について理解できる。
2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方について考えることができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	講義ガイダンス、質的研究の意義と方法論	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
2	看護実践における様々な質的研究の可能性と限界	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
3	質的研究の理論と哲学的背景： 科学性と一般化、理論化に関する問題、看護援助方法、 および技術の開発・推進	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
4	援助者の視点と研究の倫理的限界 質的研究におけるサンプリングとデータ収集、分析の視 点	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③
5	事例研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法 論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
6	事例研究の文献クリティーク	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
7	質的記述的研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法 論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
8	質的記述的研究文献クリティーク	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
9	グランデッドセオリー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法 論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
10	グランデッドセオリー文献クリティーク	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
11	エスノグラフィー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法 論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
12	エスノグラフィー文献クリティーク	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③

13	現象学的アプローチ： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
14	現象学的アプローチ文献クリティーク	院生によるプレゼンテーション グループディスカッション	村瀬 智子	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	村瀬 智子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受験するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

IV 教科書

『バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—』 原著 第7版 ナンシー・バーンズ スーザン・K・グローブ著 黒田裕子他監訳 エルゼビア・ジャパン 2015 [N07/B93]

『質的研究入門—人間の科学>のための方法論』 ウヴェ・フリック 小田博志他訳 春秋社 [361.9/F33]

『質的研究の実践と評価のためのサブストラクション』 北素子 谷津裕子 医学書院 2009 [N07/Ki61]

V 参考図書

『臨床看護研究サクセスマニュアル』 竹内登美子監修 アンファミエ 2008 [N07/Ta67]

『はじめて学ぶ質的研究』 Lyn Richards & Janice M. Morse, 小林奈美監訳 医歯薬出版 2008 [N07/R35]

『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方』 グレグ美鈴他 医歯薬出版 2007 [N07/G84]

『質的研究方法ゼミナール—グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ—』 戈木クレイグヒル滋子編集 医学書院 2013 [N07/Sa21/2nd]

『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』 木下康仁編著 弘文堂 2003 [361.16/Ki46]

『解釈学的現象学による看護研究：インタビュー事例を用いた実践ガイド』 大久保功子訳 日本看護協会出版2005 [N07/Ka54/2]

『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』 Creswell 著 操華子 森岡崇訳 日本看護協会出版会2007 [N07/C92]

『質的研究ハンドブック1：質的研究のパラダイムと眺望』 デンジン リンカン著 平山満義 岡野一郎 古賀正義訳 北大路書房 2006 [002.7/D61/1]

『エスノグラフィー』 Roper & Shapira 著 麻原きよみ グレグ美鈴訳 日本看護協会出版会 2003 [N07/Ka54/1]

『質的研究をめぐる10のキークエスチョン』 マーガレット・サンデロウスキー著 谷津裕子他監訳 医学書院 2013 [N07/Sa62]

『よくわかる看護研究論文のクリティーク』 山川みやえ他編著 日本看護協会出版会 2014 [N07/Y27]

『The practice of Nursing Research』 6th ed. N. Burus & SK. Grove SAUNDERS 2009 [N07/P88/6th]

『Nursing Research : Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice』 9th ed. D. F. Polit & C. T. Beck Wolters Kluwer Lippincott williams & Wilkins 2012 [N07/P76/9th]

VI 評価方法

受講態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%）（プレゼンテーション（45%）、レポート（20%））※配布される評価表の項目に沿って評価する。

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

看護倫理

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

小林 洋子、井篁 理江

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

今日の看護倫理の潮流から、その考え方や利点・欠点を理解する。その上で看護実践・研究・教育における今日の原則や概念を知る。さらに現場で遭遇する倫理的問題やジレンマ事例について検討することにより、問題またはジレンマ解決力や倫理的感觉を培う。

【到達目標】

1. 看護倫理に関する様々な考えとそれらの利点・欠点を説明できる。
2. 看護実践・研究・教育における倫理原則や概念を説明できる。
3. 看護実践に伴う論理的ジレンマ事例を検討方略を使って検討できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	現代の看護倫理：原則主義	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
2	現代の看護倫理：ナラティブ	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
3	現代の看護倫理：ケアリング、フェミニズム倫理学	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
4	倫理原則と看護倫理概念	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
5	専門職能団体と看護倫理綱領 1. ICN	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
6	専門職能団体と看護倫理綱領 2. 日本看護協会	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
7	看護実践の場によくみられる倫理的問題	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
8	看護実践の場における倫理的問題と検討方略	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
9	看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例の検討（閉鎖的な環境におかれた精神科事例）	講義 グループディスカッション	井篁 理江	②③
10	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：緩和医療の場合	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
11	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：DNR 指示	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
12	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：医療者のパターナリズム	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
13	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：患者と家族の意見の違い	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
14	看護研究・教育における倫理	講義 グループディスカッション	小林 洋子	②③
15	まとめ	グループディスカッション	小林 洋子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

授業参加の準備、復習、およびプレゼンテーションの準備を行い、理解を深める。

IV 教科書

『看護倫理学－看護実践における倫理的基盤－』 松木光子著 ノーヴェルヒロカワ 2010
〔N01.1/Ma78〕

V 参考図書

『臨床倫理ベーシックレッスン』 石垣靖子、清水哲郎 日本看護協会出版会 2012〔N0.1.1/I73〕

『看護実践の倫理 第3版 倫理的意思決定のためのガイド』 サラ.T. フライ著 片田範子 山本あ
い子訳 日本看護協会出版会 2010〔N01.1/F89/3rd〕

『新版 看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理』 日本看護協会編 日本看護協会出版会
2006〔N62/N77〕

『臨床倫理学 第5版』 Jonsen 他 赤林朗他訳 新興医学出版社 2006〔490.15/J72/5th〕

『看護倫理のための意思決定10のステップ』 Thompson, J.E., Tohmson, H.O.

ケイコ・イマイ・キン監訳 日本看護協会出版会 2004〔N01.1/Th6〕

VI 評価方法

レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参加（10%）

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

統計学

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
前期	2	必修	22.5

担当教員

森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

統計学（記述統計、推定統計）の総合的知識を習得し、統計解析パッケージSPSS を用いた統計分析の方法を習得し、各自の研究や実務に用いることができることを目的とする。

【到達目標】

1. 統計の総合的な考え方を理解する。
2. 得られたデータをSPSS で分析することができる。
3. 統計の分析結果を正しく解釈できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	統計学概論（1） 統計学の仕組み	講義、討議	森田 一三	②③
2	統計学概論（2） 統計学の成り立ち	講義、討議	森田 一三	②③
3	SPSS の紹介と統計分析の準備	講義、討議、演習	森田 一三	②③
4	記述統計：度数分布／エクセルとの連携	講義、討議、演習	森田 一三	②③
5	記述統計：代表値	講義、討議、演習	森田 一三	②③
6	記述統計：散布度	講義、討議、演習	森田 一三	②③
7	関係の分析：相関分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
8	関係の分析：重回帰分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
9	平均の差の検定：t 検定	講義、討議、演習	森田 一三	②③
10	分散分析法	講義、討議、演習	森田 一三	②③
11	割合の差の分析：カイ二乗分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
12	割合の差の分析：オッズ比	講義、討議、演習	森田 一三	②③
13	ロジスティック回帰分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
14	中央値の差の分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
15	まとめ	講義、討議、演習	森田 一三	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ・授業中に課題となったものについて復習してきてください。

IV 教科書

『SPSS によるやさしい統計学 第2 版』 岸学著 オーム社 2012 [417/Ki56/2nd]

V 参考図書

講義中に適宜紹介

VI 評価方法

成績評価は、受講態度（参加・貢献度）〔30%〕、課題提出〔70%〕を合計して算出されます。欠席および遅刻は減点となります。

VII 受講要件

SPSS を用いて解析する提出課題が出るので、大学のPC でデータを分析する時間が限られている方は、SPSS GradPack（年間8800 円程度）を契約するなど、自分のPC でもSPSS を用いて課題を解析できるよ

うにしてください。

VIII その他

なし

看護政策論

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

国の保健医療福祉政策の動向をとらえ、医療看護サービスの質向上における政策の重要性、および看護職者が政策決定の過程に関わる意義を学ぶ。さらに具体的な看護の現状から看護政策の課題を探求し、看護政策に提言する能力を培う。

【到達目標】

1. 保健医療福祉政策の動向から政策が医療看護サービスの質に重要であることを理解する。
2. 看護に関連する政策過程を概観し看護職が政策決定過程に参画する意義を理解する。
3. 所属組織の現状から保健医療福祉制度や法律を踏まえ、看護政策の視点で課題を提示できる。
4. 提示した看護政策の課題を解決する方法を説明できる。
5. 提示した看護政策の課題について可能な範囲で提言できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	ガイダンス：（講義・演習の進め方等）	講義	山田 聡子	②③
2	看護をとりまく保健医療福祉政策の動向	講義	山田 聡子	②③
3	政策過程・政治過程	講義	山田 聡子	②③
4	看護職者と政策	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
5	看護に関連する政策と法律・制度①保健師助産師看護師法	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
6	看護に関連する政策と法律・制度②看護師等人材確保に関する法律	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
7	看護に関連する政策と法律・制度③診療報酬制度	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
8	看護に関連する政策と法律・制度④看護婦・士から看護師への名称変更	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
9	看護政策課題に関する発表と討議①	グループディスカッション	山田 聡子	②③
10	看護政策課題に関する発表と討議②	グループディスカッション	山田 聡子	②③
11	政策への参画：看護技術教育	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
12	政策への参画：看護の経済的評価	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③
13	看護政策の課題解決方法に関する発表と討議①	グループディスカッション	山田 聡子	②③
14	看護政策の課題解決方法に関する発表と討議②	グループディスカッション	山田 聡子	②③
15	まとめ	講義 グループディスカッション	山田 聡子	②③

※実践的な方法による授業：②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そ

のため、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。受講後は、十分な時間を用い学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

IV 教科書

『看護職者のための政策過程入門』 見藤隆子 石田昌宏 大串正樹 北浦暁子 伊勢田暁子
日本看護協会出版会〔N60/Mi62〕

V 参考図書

随時紹介する。

VI 評価方法

プレゼンテーション（40%）、討議参加状況（30%）課題レポート（30%）

VII 受講要件

なし

VIII その他

なし

地域保健統計学

(履修証明プログラム)

開講時期	単位数	必修・選択	時間数
後期	2	必修	22.5

担当教員

森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域保健の課題を理解し、効果的な対策を企画し、その実践的な評価を行うためには、統計的解析が必須である。ここでは、統計的推論、測定の信頼性と妥当性、因子分析やロジスティック回帰分析などの地域保健の統計的解析に必要な知識とスキルを身につけることを目指す。このために、さまざまなデータについて実際にSPSSを用いて分析をして習得する。

【到達目標】

1. 与えられたデータに適した分析手法を決定できる。
2. 手持ちのデータを分析処理できる。
3. 得られた結果を正しく解釈できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	授業方法	担当者	実践的 授業※
1	地域保健と統計分析	講義、討議	森田 一三	②③
2	統計的推論	講義、討議	森田 一三	②③
3	分散分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
4	回帰分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
5	測定の信頼性	講義、討議	森田 一三	②③
6	測定の妥当性	講義、討議	森田 一三	②③
7	主成分分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
8	因子分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
9	クラスター分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
10	判別分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
11	ロジスティック回帰分析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
12	対数線形モデル	講義、討議、演習	森田 一三	②③
13	生存時間データの解析	講義、討議、演習	森田 一三	②③
14	多変量解析法	講義、討議、演習	森田 一三	②③
15	まとめ	講義、討議、演習	森田 一三	②③

※実践的な方法による授業： ②双方向又は多方向に行われる討論 ③実務家教員や実務家による授業

III 時間外学習

- ①事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ②課題となったデータを自分で分析して復習してきてください。

IV 教科書

『SPSS による統計データ解析』 柳井晴夫、緒方裕光編著 現代数学社 [417/Y54]

V 参考図書

講義中に適宜紹介

VI 評価方法

成績評価は課題提出（70%）、受講態度（参加・貢献度）（30%）を合計して算出されます。欠席および遅刻は減点になります。

Ⅶ 受講要件

「統計学」を履修していること。

Ⅷ その他

なし